

域内循環の向上を目指す 「果報庭(かふうなあ)」の 取組について



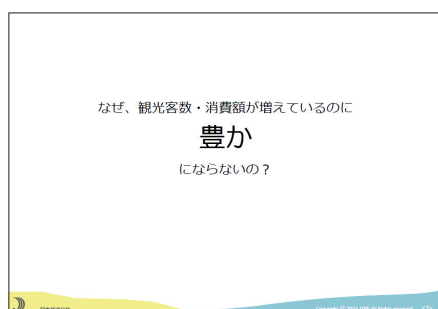
No. 7



「果報庭」フォーラムの様子

経済産業部ではこれまで、県内生産者と観光事業者（県内ホテルなど）がお互いの情報を知り合う場として、「果報庭（かふうなあ）」と題した情報交流会を開催し、成約事例も出てきております。

「果報庭」では、「ホテルとの取引はハードルが高そう」「どんな商品なら選んでもらえるだろうか」と感じている県内サプライヤーと、「できるだけ地元の商品やサービスを利用したい」「どこにどんな商品やサービスがあるんだろう」と考えているバイヤーが、一堂に会し、お互いの情報をシェアし交流することで、パートナーシップの構築を促進することをねらいとしています。また、マーケットニーズに即した新商品開発や、県産の商品・サービスの魅力向上、観光拠点での取扱商品の増加、観光客等の消費促進につながるなど「域内経済循環の向上」により、強い沖縄経済



済の構築につなげることを目的としています。

9月22日（金）に域内循環を高める「果報庭」の取組を広く知ってもらうため、県内サプライヤー、バイヤー、県民を対象にした「果報庭フォーラム」観光で繋がる沖縄の域内循環を元気に！」を開催しました。

基調講演では、「先進事例にみる沖縄観光・地域循環向上の可能性」について山田雄一氏（公益財団法人日本交通公社理事）より、なぜ、観光客数・消費額が増えているのに「豊か」にならないの？という視点から、豊かになる＝付加価値を高めることとし、プライシングの常識の変化（顧客が感じる価値によって価格が決まる）や、ターゲットとなり得る旅行市場の顧客とはどういった人なのか、観光が「ライフスタイルそのもの」になった顧客に対し、いかに体験プログラム（経験）を提供できるかといったお話をいただきました。

パネルディスカッションでは、バイヤーとして登壇いただいた荒井達也氏（カフーリゾートフチャクコンド・ホテル、アクアセンスホテル&リゾート統括総支配人）から、

「ホテルは地域のストーリーとともに域内企業の商品価値を伝え、消費者に分かってもらう取組が必要。」といったお話があり、昨年度の果報庭で成約に至ったゆめじん有限会社の江中直人氏（専務取締役）からは、「ホテルとは、一取引先ではなく、ホスピタリティを高めるパートナーになれるよう現在進行形で商品をブラッシュアップしている。」といったお話がありました。

2024年1月16日開催！
「果報庭」出展事業者（サプライヤー）
募集について

今年度は、2024年1月16日（火）に4回目の開催となる「果報庭」を予定しており、年内に、観光事業者の参加登録を予定しています。ぜひご応募ください。左記URLに成約事例も掲載しています。



<https://www.ogb.go.jp/keisan/tsusyou/kafuna>

お問合せ先
経済産業部 中小企業課
☎098-866-1755